

あさのちゃんねる

vol.37

2021年 春号
(年4回発行)

特集

「自分のペースでコントロールしよう！ 糖尿病の予防と治療」

内科医長
澤村 医師インタビュー

連携登録医のご紹介

金沢T&Dクリニック

院長 織田 展成 先生



正しい換気で
効果的に感染対策
をしましょう！

病院の理念

救急から在宅まで、地域の医療を守り支える病院を目指します。

病院の方針

【地域連携】医療・介護・福祉が一体となった切れ目のない医療サービスを提供し、地域医療の充実に努めます。

【救急医療】断らない救急医療を目指します。

【予防医学】健康診断を推進し、病気の予防・早期発見に努めます。

【チーム医療】患者さん中心のチーム医療を実践し、安全で質の高い医療の提供に努めます。

【人材育成】次代の医療を担う信頼される人材の育成に努めます。

自分のペースで コントロールしよう！ 糖尿病の予防と治療

生活習慣の変化により、日本で急速に増加している糖尿病。中高年の病気というイメージがありますが、近年では若年層の発症も増えています。糖尿病の専門医である澤村医師がその原因や予防法、治療について解説します。

日本人は人種的に 糖尿病になりやすい

糖尿病は、すい臓から出るインスリンというホルモンの量が不十分か、もしくは効きが悪く、血液中に糖が増えてしまう病気です。人間は食べ物を取ると血液中に糖が入ってきますが、それを細胞に取り込み、エネルギーとして利用するためにはインスリンが必要です。インスリンの量が十分であれば血糖は一定の範囲に抑えられますが、糖尿病の患者さんはインスリンがうまく働かないため、糖をエネルギーとして利用することができず、血糖が増えてしまいます。血糖が増えすぎれば血管が傷つき、重症化すると神経の障害、眼の障害、腎臓の障害といった合併症が出てくることもあります。糖が内臓にエネルギーとして供給されないため、脳や筋肉なども含めた老化が早く進んでしまう点もこの病気の怖いところです。糖尿病には免疫異常によりすい臓の機能が落ちることで発症する1型と、すい臓の機能低下に加え過食や肥満など生活習慣の乱れがあらわさる



内科副部長

さわむら としたか

澤村 俊孝

日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医
日本内分泌学会内分泌代謝科専門医
日本高血圧学会専門医・指導医
日本甲状腺学会専門医
日本糖尿病学会専門医
日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医
日本病院総合診療医学会認定医・指導医
ICLSインストラクター
JMECCインストラクター

趣味

卓球

健康法

身体を動かすこと

座右の銘

一期一会

診察日

火曜の午前、水曜の午後、金曜の午前、土曜



糖尿病と内分泌疾患に特化した 糖尿病内分泌センター

ことによって発症する2型があり、多くの患者さんは2型です。日本人は欧米人に比べ、体質的にインスリンを分泌するすい臓の機能が弱く、糖尿病になりやすい人種です。持って生まれた人種的な体質に加え、生活習慣の乱れによりすい臓が酷使されると、糖尿病になるリスクが高まります。近年、日本では中高年だけでなく、子どもや若年層での発症も目立ってきています。

予防と治療は 「無理しないこと」が大切

糖尿病は生活習慣を改善することで予防できる病気です。不健康に体重が増えてきたら、栄養バランスが取れた食事と適度な運動を心掛けましょう。ただ、過度な食事制限はデメリットもあります。例えば炭水化物を制限するような食事療法は、うまく行うことで血糖の低下や体重の減少を得ることができる食事療法です。しかし過剰に行いすぎた場合デメリットもあります。腎臓が弱い人が炭水化物の代わりにたんぱく質を取りすぎれば、悪影響がありますし、脂肪肝やコレステロール値が高い人が脂質を取りすぎれば、病状が悪化するリスクがあります。つまり個人個人にあった食事療法があるということです。できれば医師のメディカルチェックをうけながら食事療法を行っていくことをお勧めします。

糖尿病の症状は、喉の渇きや頻尿、体重の減少などが挙げられますが、初期ではほとんどの方が無症状です。早期に発見するためには、健康診断の血糖値とHbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）をチェックし、異常値を示したら専門医を受診してください。詳しい検査をし、糖尿病かどうかを診断します。治療は基本的に生活習慣の見直しが基本です。医師や栄養士と話し、定期的に血糖値を測りながら血糖を正常に保てる食事や運動量を相談していきます。治療においても自己判断での過度な食事制限や運動は禁物です。最初に全身の健康状態を調べ、個々に合った治療をすることが大切です。合併症が出ている場合や生活習慣の見直しのみで改善が得られない場合は生活習慣改善と並行し、投薬治療をします。薬には弱ったすい臓の機能をサポートする薬が主ですが、近年では摂取した糖を尿の中ですててしまう薬（体重もその分へりやすいです）なども発売されており、ひとりひとりにあった薬を相談のうえ選択しています。ただ、忘れてほしくないのは、治療は血糖値を下げるのが最終的な目的ではなく、その人らしい人生を送るための手段です。普段の生活を楽しみながら血糖値をコントロールしましょう。



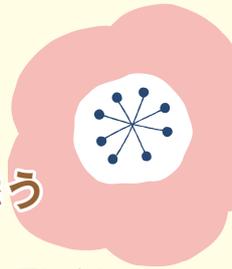
当院には、糖尿病をはじめ、高血圧や脂質異常症、ホルモンの異常で起こる内分泌疾患を診療する糖尿病内分泌センターがあります。糖尿病や高血圧の原因が内分泌疾患である場合があり、当センターでは背後に隠れた疾患を見つけだし、個々に合わせた的確な治療をしています。例えば、高血圧の約1割が原発性アルドステロン症という内分泌疾患が原因であり、一般的な高血圧の薬を飲むだけでは根本的な解決にはなりません。アルドステロンは血圧を上げるホルモンで、過剰に出すぎると心臓や腎臓、血管などさまざまな臓器を悪くする原因にもなるため、分泌をブロックする治療が有効です。当センターには糖尿病の専門医の他、内分泌疾患の専門医が3人、高血圧の専門医が2人おり、専門性の高いチーム医療を提供しています。

今はテレビやインターネットで病気の情報が簡単に入ってきますが、中には誤った情報もあるため、正しい情報を発信することも医療従事者の役目です。当院では糖尿病教室や生活習慣病に関する出前講演を開催し、地域の皆さんに糖尿病を理解していただく活動をしています。

医師として 患者さんの人生に寄り添う

私は医学部に入った当初、研究医を目指していました。薬剤師だった両親の影響もありますが、小学生の頃、友人を白血病で亡くした経験がきっかけです。当時は治療をしているのに命を落としてしまうことを理不尽に感じ、研究を通して病気の人を救いたいと思うようになりました。しかし、研修などで患者さんと接しているうちに、会話をするだけで患者さんの心が変化していくことを感じ、臨床医の道へ方向転換しました。医師になった当初は、病気を完治させることばかり考えていましたが、今は患者さんに幸せな人生を送ってもらうことに目を向けるようになりました。治療はそのための手段で、医師は人生に寄り添う仕事です。患者さんにとって出会って良かったと思える医師でありたいです。

糖尿病は、生活習慣を見直しながら上手に付き合うことが大切な病気です。生活改善や食事療法も、それぞれの体調を見ながら無理せず行うことが当院の方針です。私たちがひとりひとりに合わせた治療法と一緒に考えますので、気軽にご来院ください。



糖尿病について

糖尿病は今や国民病と言われるほど有病率が増加しております。糖尿病が他の病気と異なる点として医師だけでは治すこと、治療することができないという点です。治療は下記のようないくつかのプロセスからなっています。

- 血糖が上がっている原因を検討する
- どのような生活習慣を改善すれば改善するのか考える
- 生活習慣以外の部分を薬物療法で補うべきかを検討する
- 合併症が起こってくればこれに対する治療を行う



多職種による糖尿病カンファレンスの様子

治療の目標としてはできるだけ健康に、幸せに過ごせる時間を長くしていただけるようにということが重要と考えています。このため患者さんと医師だけでなく様々なスタッフで患者さんの情報を共有し、何が一番この患者さんにとって良いのかということ話し合いながら治療にあたっています。患者さんも自分の大切に思っていることや生活のことを十分教えていただけるほど、治療も理想に近づけることができると思います。それぞれの患者さんごとに治療は異なると考えておりますので、是非受診して相談してみてください。

高血圧症 原発性アルドステロン症について

日本人の3人に1人が高血圧であると言われております。高血圧の約10%はその他に根本的原因があると言われており二次性高血圧症と呼ばれます。特に“アルドステロン”という血圧を調整するホルモンのバランスが乱れることにより高血圧をきたす“原発性アルドステロン症”では臓器障害が起こりやすいことが有名です。脳血管障害を若くして引き起こしてしまうことも多々経験します。通常の高血圧(本態性高血圧)では血圧が下がれば臓器障害は減少しますが、原発性アルドステロン症ではホルモン自体が臓器や血管に影響を及ぼすため、血圧を下げることに同時にホルモンの悪影響を取り除く治療が必要です。適切に治療を受けるためには検査にてホルモンの影響を調べる必要があります。特に下記のような方は原発性アルドステロン症の可能性が高いと言われております。気になる方は外来での検査をお勧めします。

- 40歳未満で発症した高血圧
- 低カリウム血症を認める高血圧
- 副腎に腫瘍を認める高血圧
- 若年発症の脳血管障害の方
- 治療開始時の血圧が比較的高い方(150/100mmHg以上)
- 治療抵抗性高血圧(多数の薬剤を飲んでも血圧が下がらない)の方
- 睡眠時無呼吸症候群(寝ている時に息が止まっている)を合併している高血圧



連携登録医のご紹介

今回は、金沢市大樋町の

『金沢T&Dクリニック』を紹介いたします。

2019年7月に大樋町でクリニックを開業しました。
[T&D]という名前は、甲状腺疾患[Thyroid Disease]、
糖尿病[Diabetes Mellitus]の頭文字からです。クリ
ニックでは、甲状腺疾患や糖尿病、生活習慣病に特化し
た診療を予約制で行っており、スマートフォンやPCでの
Web予約・Web問診などを活用し「テクノロジーで人
に寄り添う」医療を目指しています。

クリニックは専門領域に特化している分、専門以外の
ことは苦手で、レントゲン検査も出来ず、スタッフのマン
パワー不足もあり、浅ノ川総合病院さまには、色々な病
気が重なっている患者さん、発熱や腹痛などの急病の患
者さん、CTやMRIなどの画像検査が必要な患者さん、
公費負担や社会的・公的サービスが必要な患者さんな
どの診療をお願いしています。

先生方のみならず、地域連携室を含めたスタッフの方々
にも丁寧に対応していただき、とても助かっています。いつ
もありがとうございます。今後ともよろしく願います。



クリニック外観

連携登録医とは

地域の医療機関と浅ノ川総合病院の相互連携を一層緊密にし、適切で切れ目のない医療の提携を目指して開始された「連携登録医制度」に登録していただいている医療機関の先生方です。



院長 織田 展成 先生

金沢T&Dクリニック

診療科：甲状腺内科、糖尿病内科、内科
専門医資格：医学博士、日本甲状腺学会専門医、
日本内分泌学会専門医
日本糖尿病学会専門医
日本高血圧学会専門医
略歴：金沢大学医学部卒・大学院卒
金沢大学附属病院、横浜栄共済病院
小松市民病院、浅ノ川総合病院などに勤務

診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:30	○	○	○	/	○	/	/
14:00~18:00	○	○	○	/	○	/	/
9:00~13:30	/	/	/	/	/	○	/

休診日：日曜日、祝日、木曜

住所：〒920-0818
金沢市大樋町3-4
電話：076-254-5672
駐車場：あり
アクセス：北鉄バス、JRバス 鳴和バス停すぐ



最新鋭MRI装置のご紹介

新世代
2機導入

MRI検査とは、磁場を利用して体内の様子を画像化するもので、解剖学的、質的診断にきわめて有効な検査です。
当院では部位や患者さんの病態によって2機を使い分けています。

2020年導入

1.5テスラ MRI

▶ シーメンス社 MAGNETOM Sola

この装置には、AIを用いて開発した自動撮像機能や新しい生態情報認識機能などが搭載されています。



- 高画質と撮像時間短縮の両立を実現
- 最新のプランアシスト機能で操作性が向上
- 静穏性向上、開口部の拡大化により、患者快適性を強化

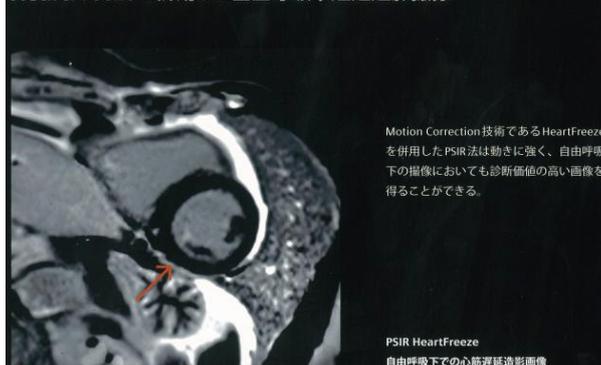
【装置の特徴】

- ◆ 一般的な1.5Tよりも物理的な特性が優れており、他の機種よりも明瞭な画質を得ることが可能です。
- ◆ 腹部領域や乳腺、婦人科領域においては、造影剤を用いた血行動態の評価が重要です。現在の造影ダイナミック撮像においては、動きのアーチファクトを抑制するために動脈相、門脈相、遅延相それぞれにおいて、息止めによる撮像を行っており、各事相の撮像時間も同一なのが一般的です。本機種に搭載された最新撮像法であるGRASP法を併用したVIBE法は動きのアーチファクトに強く、高速撮像が可能のため、ダイナミック撮像において安静呼吸下での撮像が可能となりました。繰り返しの息止めが困難な患者さんや、意識の無い患者さんなどでは、従来撮像が困難だった腹部領域や乳腺、婦人科領域でのダイナミック撮像を含む造影検査が可能となりました。
- ◆ 金属アーチファクト(1.5Tの方が3Tより低減)の問題や、腹水の問題などで、1.5Tの方が3Tより良好な画像が得られる症例にも対応可能となっています。

画質劣化を最小限に、スキャン時間の短縮を実現



HeartFreezeを併用した自由呼吸下遅延造影撮像



2021年4月1日導入!!



3 テスラ MRI

▶ フィリップス社 Ingenia Elition

- 脳などの微細血管検出性能が向上し、脳動脈など血管病変が鮮明
- 高精細な断面像で細かい病変の発見率が向上
- 従来機種より血管画像や軟部組織・病変部とのコントラストを明瞭に描写可能
- 高速撮像技術により全身領域の検査度の速度向上

【装置の特徴】

特徴1) 性能向上による画質の向上

PHILIPS社唯一のフルデジタル化技術は、ノイズの混入とシグナルのロスを限りなく低減することで従来よりもSNRが最大40%向上し、**撮像時間を大幅に減らすことに成功**しました。また、新設計のマグネットは70cmのボア径ながらも優れた磁場均一性を発揮し、**安定した画質の広範囲撮像を提供可能**です。さらに、“MultiTransmit 4D”という、患者さんの撮像部位ごとに最適化したRFパルス印加システムにより、3.0T装置で特に顕著な**画像のムラを大幅に改善**しています。加えて、本装置は従来とは異なった設計思想に基づいた新規傾斜磁場システム“Vega Gradient”を搭載しています。これにより、一般的な3.0T装置で問題となる**画像の歪みや、装置に高負荷を与える撮像での時間の延長によるアーチファクトを大幅に改善**しています。

特徴2) 患者さんの負担軽減

患者にストレスのかかる撮像時間の長い特殊検査などに対し、不快感を感じない設計の“ComfortPlus Mattress”は**90%の患者さんに快適性を評価**いただいています。また、装置のフルデジタル化や高速撮像技術“Compressed SENSE”は**ほとんどの撮像の時間短縮を実現**します。さらに、様々な検査の自動アシスト機能は検査を効率化し、その**分質の高い検査を提供**します。

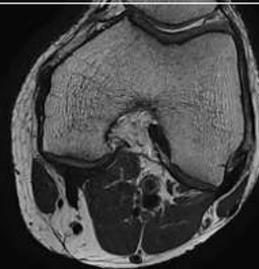
特徴3) 臨床的メリット

従来よりも高画質を提供

3.0T装置はそれよりも低磁場の装置に比べてSNRが向上し、病変の検出能に優れています。一方で、従来の3.0T装置ではアーチファクトや画像の歪みといった問題がありましたが、そのような問題点を改善する一線を画した設計思想による性能を発揮します。

その他、**頭部検査や体幹部領域においても適切な鑑別、評価が可能となり、従来の問題点の改善もみられます。**

DWI画像が最大30%高速化



空間分解能が最大60%向上



お問い合わせ先・検査予約

医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院

放射線部 〈平日〉9:00~17:00

TEL:076-252-2175



今年4月に赴任された
医師を紹介します！

新任医師紹介



内科 **北島 進** きたじま すすむ

丁寧な診療を心がけています。よろしく
お願いします。

専門分野／リウマチ・膠原病、腎臓



内科 **橋本 篤** はしもと あつし

ご満足いただけるよう、おひとりおひ
とりに適切な医療を提示させていただ
きます。よろしくお願いします。

専門分野／糖尿病、高血圧、甲状腺、内分泌



内科 **加藤 諒** かとう りょう

皆さんに寄り添い、地域医療に貢献でき
るように頑張ります。

専門領域／呼吸器内科、
慢性閉塞性肺疾患



内科 **楠野 颯樹** くすの さつき

医学は膨大で、かつ常に進歩しています。専門
領域に限らず内科全般についても常に学び続
けて行こうと思います。患者さんの利益を念
頭に置いて診療に当たらせていただきます。

専門分野／消化器



腎臓
内科 **加賀谷 侑** かがや ゆう

患者さんに寄り添い、地域医療に貢献で
きるように頑張りたいと思います。よろ
しくお願いします。

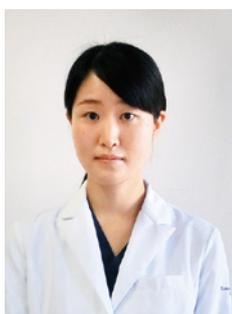
専門分野／腎臓



腎臓
内科 **山之内 啓貴** やまのうち ひろたか

患者さんによりよい医療を提供できるよ
う日々精進しています。よろしくお願いします。

専門分野／腎臓



眼科 **西江 緑** にしえ みどり

皆様の「みえる」を守るため、日々精進し
てまいります。よろしくお願いします。

専門分野／一般眼科



お知らせ

✿ 創立記念日休診のお知らせ

2021年6月1日(火)は創立記念日につき、外来診療を休診いたします。(救急の場合は救急外来で対応します)

お問い合わせ先

広報誌に関する質問・投稿・ご意見などは広報室へお願いいたします。
TEL:076-252-2101(代) URL:<http://www.asanogawa-gh.or.jp/>
メールアドレス:kouhou-1204@asanogawa-gh.or.jp

